

## 2. 目標の設定

### (1) 中央区の地域特性

#### ① 地勢

本区は、東京 23 区のほぼ中央に位置し、東側は隅田川を境に墨田区および江東区に接し、西側は旧汐留川とこれに続く旧外濠を境に千代田区および港区と、北側は神田川および旧竜閑川を境に千代田区と台東区に接している。また、本区の南側は東京湾に臨んでいることから、四面を水（河川や海）に囲まれたいわば“水の都”としての地勢を有している。

本区の面積は 10.115km<sup>2</sup>であり、東京都の総面積に占める割合は約 0.46%、区部に限定した場合の割合は約 1.61%である。また、都内東部低地帯にあって恵まれた地盤をもっている。

#### ② 人口

都心に位置する本区は、日本経済の中心地として繁栄する一方、昭和 29 年以来人口減少が続き、昭和 50 年 8 月に 10 万人を割り込んだ。

しかし、本区の定住人口回復施策と近年の都心回帰現象との相乗効果により、平成 18 年 4 月 4 日に、昭和 50 年以来 31 年ぶりの 10 万人台回復を達成した。その後も堅調な人口増加が続き、令和 2 年 4 月 27 日には、昭和 29 年以来、66 年ぶりに 17 万人台を回復した。

令和 4 年 1 月 1 日現在、本区の人口は 171,419 人、世帯数は 96,535 世帯であり、内 8,062 人の外国人が居住・生活している。年齢別に分類すると、年少人口（0～14 歳）は 23,708 人、生産年齢（15～64 歳）は 122,395 人、老年人口（65 歳以上）は 25,316 人となっている。

平成 27 年 10 月に行われた国勢調査によると、本区の昼間人口は 608,603 人であり、昼夜間人口比率（夜間人口 100 人当たりの昼間人口の割合）は 431.1 と全国でも屈指の高い水準にある。

## (2) 基本目標・推進目標の設定

事前防災・減災に資するあらゆる施策を総合的かつ計画的に推進していくため、本区として達成すべき基本目標および推進目標を定めた。

国の「国土強靱化基本計画」や東京都の「東京都国土強靱化地域計画」（平成28年（2016年）1月作成）で掲げられた基本目標を参考に、本計画の基本目標として以下の4つを設定した。

また、本区として懸念すべき自然災害を想定し基本目標をより具体化した推進目標として、8つを設定した。

（国および東京都が示している基本目標・推進目標と本計画との対応表：参考「(1) 基本目標の対応表」「(2) 推進目標の対応表」を参照）

基本 目標	1	人命の保護を最大限図る
	2	区および社会の重要な機能への致命的な障害を防ぎ維持する
	3	区民の財産および公共施設に係る被害を最小化する
	4	災害発生後の迅速な復旧・復興を可能にする

基本目標を具体化

推進 目標	1	大規模自然災害が発生したときでも人命の保護を最大限図る
	2	大規模自然災害発生直後から救助・救急、医療活動、被災者支援等が迅速に行われる
	3	大規模自然災害発生直後から必要不可欠な行政機能を確保・維持する
	4	大規模自然災害発生直後から必要不可欠な情報通信機能を確保・維持する
	5	大規模自然災害発生後であっても、区内の経済活動を維持し、経済・商業への影響を最小化する
	6	大規模自然災害発生後であっても、生活・経済活動に必要最低限のインフラ機能を維持するとともに、これらの早期復旧を図る
	7	制御不能な二次災害を発生させない
	8	大規模自然災害発生後であっても、地域社会・経済が迅速に再建・回復できる条件を整備する